

IT 活用実践事例

小学校
3年・書写
(毛筆)

横画〔一・二〕

実践者：大崎市立古川第一小学校 佐々木 潤

1 学習の概要

キーワード

手本の拡大提示

児童の作品の拡大提示

相互評価

DRAGRI・動画

IT 活用のポイント

- ・ 児童の作品を実物投影機で拡大提示し、その作品を基に自己評価・相互評価させる。みんなで作品を見合うことにより授業の中で練り合いの場が生まれる。
- ・ 導入時の一斉指導を必要とするときなどに、筆使いの動画を拡大提示する。筆使いを視覚に訴えながら指導することができる。

単元名

横画〔一・二〕

単元の目標

- 【毛筆】 「横画」の始筆、送筆、終筆の筆使いを理解する。
「横画」の穂先の通り道を理解する。
- 【硬筆】 硬筆で、「横画」の方向に注意して書く。

本時の学習

横画「一・二」【毛筆】

本時の目標

「横画」の始筆・送筆・終筆の筆使いを理解する。

本時の活用コンテンツ

- ・ 毛筆動画資料集（筆使い編）
自作教材（動画・DRAGRI）

<http://www.geocities.jp/junrina2002/>

補助資料

- ・ 練習用紙
- ・ 学習カード

単元計画（3時間扱い）

- 1 「横画」の始筆・送筆・終筆の筆使いを理解し、練習する。
(本時 1/3)【毛筆】
 - ・ 始筆は、穂先の向きに気を付けてゆっくり筆を下ろす。
 - ・ 送筆は、筆を下ろした向きのまま、穂先が画の上を通るように筆を進める。
 - ・ 終筆は、筆を止め、軽く押さえてからゆっくり筆を上げる。
 - ・ 「横画」は、やや右上がりに書く。
 - ・ 「一」はやや下に反るように書く。
- 2 「横画」の始筆・送筆・終筆の筆使いを復習し、「二」の書き方を理解し、練習する。【毛筆】
 - ・ 始筆・送筆・終筆の穂先はおよそ45度。
 - ・ 穂先は画の上を通る。
 - ・ 「二」の一画目は上に反るように、二画目は下に反るように書く。
- 3 「横画」の筆使いを復習する。【毛筆・硬筆】
 - ・ 前時までの学習を振り返り、「横画」の筆使いを復習する。

本時の学習（45分）

学習活動	指導上の留意点
1 文字の基準を見付ける ・ 拡大手本・児童の試書を基に相互評価する	1 拡大手本や児童の試書をプロジェクターで拡大提示し、文字の基準を見付けさせたり、相互評価させたりする。
2 自己批正・課題把握	3 DRAGRIで編集した動画を提示し、筆順や、筆使いを確認する。 (毛筆動画資料集：自作教材)
3 練習〔動画の提示〕	5 児童の清書をスクリーンに拡大提示し、良くなった点について発表させる。
4 清書	
5 自己評価	

2 実践のポイント！

手本の拡大提示

手本を見て話し合う

最初は拡大提示した手本を見せながら自由に話し合わせる。

- ・ 「穂先は斜め上になっているよ。」
- ・ 「横画の最後も穂先が斜め上になっているようだ。」
- ・ 「横画はまっすぐじゃなく、右上がりになっているよ。」

教師は話し合いの中で「始筆」「送筆」「終筆」に着目させ、穂先の向きを確認させる。

毛筆動画資料集（筆使い編）を活用する。

見付けたことについてはすべて賞賛する。文字を見る目を育てる第一歩である。

児童の作品の拡大提示〔相互評価〕

友達の作品を基に話し合う

ここで大切なことは、**友達の作品の良いところを見付けさせる**ことである。また、更に良くなるためという観点でのアドバイスも言えるようになるはずらしい。

児童に提示する作品を選ぶ観点は、本時のねらいである「始筆」「送筆」「終筆」など一か所でも良いところがある作品を選ぶようにする。そうすれば必ず一つ以上は認め褒めてあげることができるからである。自分たちの作品について相互評価ができる目を育てることで、次の自己批評・自己の課題把握に無理なくつなげることができる。

自己評価

自己評価

児童の清書をスクリーンに拡大提示し、良くなった点について発表させる。

このとき、文字全体の良し悪しだけで判断させるのではなく、本時の課題や自分の練習の目当てに即して発表させる。

本時の課題に対して一部分だけでも納得する作品ができれば、そこを大いに賞賛してあげることが次時への意欲につながる。

毛筆動画資料集〔DRAGRI〕

動画と DRAGRI コンテンツ

筆使いや穂先の通り道（筆の方向）を視覚的に見せたい時はこのコンテンツを活用するとよい。

基本的な筆使いの動画、穂先の通り道、マウスで自由に動画を動かすことができる DRAGRI で編集された動画の毛筆資料集である。

<http://www.geocities.jp/junrina2002/>

DRAGRI で動画を編集するとマウス操作で繰り返し任意の場所から動画を動かしたり、止めたりできるので筆使いのイメージを伝えやすい。

（DRAGRI NTT-アドバンステクノロジー）

<http://www.dragri-fan.com/>

3 子どもたちは？

子どもの姿

手本を拡大提示するだけでなく、児童の作品を拡大提示することで、「次は自分の作品を大きく映してほしい」「友達に褒められて」うれしいなど、自分の作品を認めてもらえる場を設けることができ、学習意欲が高まった。また、DRAGRI で編集したデジタルコンテンツを活用することにより目の前で筆の動きが詳細に見えるので、子どもの目が釘付けになり、一気に集中力が高まった。

しかし、最終的には教師の机間指導による個別指導と賞賛が大切である。

子どもの声

- ・ 手本を見ながらみんなで話し合ったので上手に書くポイントがよく分かった。ポイントに気を付けて書いたら上手に書けた。
- ・ 自分の作品が大きく映されて、先生や友達に良いところを褒めてもらってうれしかった。
- ・ 筆使いを大きく見ることができたので、「横画」の筆使いが分りやすかったです。
- ・ スクリーンに映った筆が動いたので、びっくりしました。

